

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。成人期の健康障害の特徴の一つは内科的・外科的治療が有効な場合が多く、回復後は社会復帰をめざしている点である。したがって最新の医療に関する知識が必要となり、その選択は患者本人に委ねられる。そういった自己選択・自己決定を助け、本来の生活にできるだけ早期に復帰できるよう援助することが必要である。また、入院・治療においては家族・仕事への影響が必須なので、家族・職場の理解を得られるような支援を含めた看護を提供しなければならない。</p> <p>本科目では急性期から回復期をたどる対象者、あるいはがんと診断されて全人的な苦痛と対峙する対象者を通して、成人期の特徴的な看護を学べるよう設定した。</p>					
時間	単元目標	内 容			
90	<p>1. 成人期の発達段階の特徴をふまえ、急性期から回復期に向けた看護が実践できる</p> <p>2. 保健・医療・福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚した行動ができる</p> <p>3. 看護援助に問題意識を持ち振り返り、看護の意義を実感できる</p> <p>4. がん患者を受け持ち、終末期の看護が実践できる</p>	<p>1-</p> <p>1) 成人期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解</p> <p>2) 対象者の病理的状态と治療・処置・検査</p> <p>3) 健康障害の受け止め方と回復への認識</p> <p>4) 対象者と共に創る看護計画</p> <p>5) 不安・苦痛の軽減を中心とした看護の実践</p> <p>6) 治療・処置時の看護</p> <p>7) セルフケアの再獲得に向けた援助</p> <p>8) 対象者と共に行う評価</p> <p>9) 家族への支援</p> <p>2-</p> <p>1) 病棟における医療チームとの連携・協力</p> <p>2) 看護チームの動きをふまえた実践・報告</p> <p>3) チームにおける自己の役割の認識</p> <p>3-</p> <p>1) 対象者への看護援助に問題意識を持ち振り返る</p> <p>2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚</p> <p>3) 看護観の発展</p> <p>4-</p> <p>1) がん患者とのコミュニケーション</p> <p>2) がん患者の不安・苦痛の理解と苦痛緩和日常生活援助</p> <p>3) がん患者の家族の不安と支援の理解</p> <p>4) がん患者・家族の望む生活に向けたチーム医療の連携の実際</p>			
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる				

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅲ	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。成人期の健康障害の特徴の一つは偏った生活習慣がもたらす健康問題—いわゆる生活習慣病が顕在化してくることである。生活習慣病の多くは完治することが少なく、健康状態の揺らぎの中でいかにその人らしく人生を送るか、が課題となる。そこで、看護の役割は、その人が生涯にわたって病気と共存していけるようサポートすることであることを、実践を通して学ぶことができることをねらいとする。</p>					
時間	単元目標	内 容			
90	<p>1. 成人期の発達段階の特徴をふまえ、慢性疾患を持つ成人への看護が実践できる</p> <p>2. 保健・医療・福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚した行動ができる</p> <p>3. 看護援助に問題意識を持ち振り返り、看護の意義を実感できる</p>	<p>1-</p> <p>1) 成人期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解</p> <p>2) 対象者の病理的状态と治療・処置・検査</p> <p>3) 健康障害の受け止め方と意欲の維持</p> <p>4) 対象者と共に創る看護計画</p> <p>5) 生涯にわたり疾病のコントロールをしながら生活を送るための援助</p> <p>6) 対象者と共に行う評価</p> <p>7) 家族への支援</p> <p>2-</p> <p>1) 病棟における医療チームとの連携・協力</p> <p>2) 看護チームの動きをふまえた実践・報告</p> <p>3) チームにおける自己の役割の認識</p> <p>4) 社会的支援の実際</p> <p>3-</p> <p>1) 対象者への看護援助に問題意識を持ち振り返る</p> <p>2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚</p> <p>3) 看護観の発展</p>			
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる				

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学実習Ⅱ	担当講師	和田 美穂	
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間	
<p>科目設定のねらい</p> <p>施設に入所している対象を通して、老年期の特徴を理解する。また、老化に伴って起こる疾病、障害とその家族のもつ課題をアセスメントし、対象の生活過程を中心に安全、安楽、自立・自律を踏まえ、尊厳を守り科学的根拠に基づく看護実践能力を養う。また、社会資源の活用、多職種連携における看護師の役割と責任について理解する。</p>						
時間	単元目標	内 容				
90	<p>1. 施設生活にある対象者の身体的・精神的・社会的状態を総合的に理解し説明できる</p> <p>2. 施設生活にある対象者の生活史・人生観・価値観を尊重し QOL 向上への看護が実践できる</p> <p>3. 社会資源の活用と保健医療福祉チームの一員である看護師の役割を説明できる</p> <p>4. 看護の専門職性について考える</p>	<p>1-</p> <p>(1) 老年期を生きる対象者への尊重態度、意思決定支援</p> <p>(2) 対象者の生活史・人生観・価値観</p> <p>(3) 老年期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴</p> <p>(4) 老年期の発達課題</p> <p>(5) 対象者の健康障害と主要症状</p> <p>(6) 対象者に行われている治療・処置・検査と看護</p> <p>(7) 施設と自宅での生活環境の違い</p> <p>2-</p> <p>(1) 援助の根拠の明確化</p> <p>(2) 正確なバイタルサインの測定・フィジカルアセスメント、観察技術</p> <p>(3) 対象者の残存機能・自立を考慮した個別に応じた安全・安楽な援助</p> <p>(4) 対象者への予防的関わり・変化を予測した援助</p> <p>(5) 必要な情報の報告・連絡・相談技術</p> <p>(6) 対象者の生活機能評価から残存機能の活用</p> <p>(7) 二次障害予防の援助</p> <p>(8) 医療安全対策</p> <p>(9) 家族支援</p> <p>(10) アクティビティケア（集団・個別、音楽・園芸療法など）</p> <p>3-</p> <p>(1) 社会資源、介護保険</p> <p>(2) 多職種との連携（他職種の役割）</p> <p>(3) 地域連携</p> <p>(4) 介護老人保健施設での看護師の役割と職責の範囲</p> <p>(5) 高齢者保健・医療・福祉制度、施策の動向</p> <p>(6) 介護保険施設、介護福祉施設、施設サービス、居宅サービスにおける看護</p> <p>(7) 患者会・家族会</p> <p>4-</p> <p>(1) 老年看護の責務</p> <p>(2) 医療倫理、看護倫理</p> <p>(3) 看護者の倫理綱領</p>				
評価方法	出席状況、実習要項に準ずる					

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護学実習	担当講師	小谷 和大 全教員
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
科目設定のねらい 小児期にある対象の特徴を総合的に理解し、健やかな成長・発達を助けるとともに、健康の段階に応じた看護が実践できる能力を養う。 病院実習では、健康障害を有する子どもと家族への看護を学ぶ。 保育所実習、特別支援学校実習では、地域で生活する子どもを理解し、日常生活の世話及び簡単な健康教育、学習支援のあり方を学ぶ。					
時間	単元目標	内 容 (行動目標)			
90	1)小児期にある対象と家族を総合的に捉え理解できる。  2)小児期にある対象の健やかな成長・発達を支えるとともに、健康段階に応じた援助を行い、成果を検討する。  3)対象と関係形成を築き、その関係形成過程から自己の成長と課題に気づくことができる。  4)子どもの健全な成長発達を支える、保健・医療・福祉、教育の中での看護職の役割と責任について理解できる。  5)子どもと家族との関わりを通して自己を見つめ、小児看護について考える。	(1) 対象の成長発達段階を捉え、身体的・精神的・社会的特徴を理解する (2) 日常生活や遊び(学習)を通して対象の年齢・月齢に応じた成長発達の特性を把握する。 (3) 対象は子どもと家族であり、1つの単位として捉える。  (1) 対象の健康状態を把握し、健康段階を判断する。 (2) 健康障害及び治療・処置・検査が対象の生活にどのように影響しているのか理解する。 (3) 対象に合わせた基本的な生活習慣確立及び自立へ向けた援助を行う。 (4) 対象に合わせた治療・検査・処置の援助を行う。 (5) 対象に行われる援助の方法・目的を、対象に分かりやすく説明し、対象が納得して援助が受けられるように関わる。 (6) 対象の健康段階、成長発達から危険因子を考え、事故防止に必要な行動をとれる。  (1) 子どもの権利や人権尊重を念頭に置き、対象を尊重し、誠実な態度で関わる。 (2) 対象との関係形成過程について振り返ることができ、信頼関係を構築する。  (1) 対象を支える、保健・医療・福祉、教育の役割と機能を理解する。 (2) チームの中での看護職の役割を考える。 (3) チームの一員として責任ある行動をとる。  (1) 子どもの健全な成長発達を支える看護について考える。 (2) 自己の学びと課題を明確にする			
評価方法	出席状況 実習評価は実習要項に準ずる。				

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学実習	担当講師	谷口 留充
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>現在、母性看護の対象は妊産褥婦とその子ども将来子どもを生み育てるべき女性、および過去においてその役目を果たした女性のみならず、生涯を通じて性と生殖に関する健康を守る観点から、女性と生殖や育児のパートナーとしての男子、子どもが生まれるあるいは生み育てる家族、その家族が生活する地域社会をも含むようになった。母性看護学概論、援助論で健全な次世代の育成という母性に焦点を当て、母性保健と健康指導、および周産期の看護を学んだ。</p> <p>本実習では、正常経過にある妊産褥婦の身体的・心理的・社会的特性を理解し、出産直後から退院までの看護の実際を学ぶ。また、地域支援実習を取り入れ、地域で暮らす母、児、その家族の状況や思いをとらえ、より健康に過ごすためにどのような支援活動が必要かを知り、その中での看護職の役割について学ぶ。さらに、母性看護学実習をとおして自己の母性観・父性観が育成されることをねらいとする。</p>					
時間	単元目標	内 容			
60	1. マタニティサイクルにある対象と児の特徴をふまえ、健康の保持・増進に向けた看護が実践できる。	1. 1) マタニティサイクルにある対象の身体的・心理的・社会的特徴の理解 2) 新生児の身体的変化の理解 3) 妊産褥婦の特徴と経過に応じた観察・アセスメント 4) 新生児の特徴と経過に応じた観察・アセスメント 5) マタニティサイクルにある対象の順調な生理的経過と母親役割獲得に向けた看護計画の立案と実践 6) 胎外生活への適応に向けた看護計画の立案と実践			
30	2. 地域・病院で実施されている保健医療福祉チームの連携の実際と、看護師の役割が説明できる。	2. 1) 地域・病院における他職種の連携 2) 保健・医療・福祉チームにおける看護職の役割 3) チームの一員としての役割と行動			
	3. マタニティサイクルにある対象と児との関わりから母性看護について考える。	3. 1) 看護実践の振り返り 2) 自己の母性観・父性観 3) 自己の成長と課題の自覚			
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる				

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護学実習	担当講師	田中佳代子 全教員
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>精神看護学実習では精神に障害がある人の理解を深め、精神状態が日常生活に及ぼす影響と回復過程について学ぶ。また対象者との関係を形成する中で、相互作用を自己洞察しながら、精神看護に必要な援助とその方法について学ぶ。また精神に障害を持ちながら地域で生活している人との関わりの中で、あらゆる人々がその人なりの心の健康を保ちながら、その人らしく生活していけるための『リカバリー』の考え方に基づいて、社会支援の実際と看護について学ぶ。</p>					
時間	単元目標	内 容			
90	<p>1. 精神に障がいを持つ人の心と行動を、生物学的・心理学的・社会的観点から理解できる</p> <p>2. 対象者の「回復」のための看護を考え実践できる</p> <p>3. 病院及び地域で行われている保健医療福祉チームの連携について理解し、チームの中で看護が果たす役割について考えることができる</p> <p>4. 自己のあり方や感情の変化に気づき、精神障がいを持つ人やその家族にとってのより良い看護を考えることができる</p>	<p>1) 病気や治療によって変化した生活と現在の状態を捉える</p> <p>(1) 生活者としての対象理解</p> <p>(2) 生活史や家族関係を踏まえた対象理解</p> <p>2) 対象者の抱える苦難や生きがいを捉え、「回復」のために必要な看護を考える</p> <p>(1) 発達課題や危機を乗り越えられないことによる心理社会的側面への影響をアセスメントする</p> <p>(2) 精神症状だけでなく、健康的な側面も踏まえて生活行動との関連をアセスメントし、自立に向かうための看護を考える</p> <p>1) 対象者の精神症状や状態に応じて持てる力や自発性を尊重した看護の実践</p> <p>2) 治療的関わりを目的としたコミュニケーションの実践</p> <p>(1) 治療環境の理解</p> <p>・精神保健福祉法と関連づけた対象者にとっての治療的環境の理解</p> <p>(2) 「傾聴」や「共感」のコミュニケーション技術の活用</p> <p>(3) 人としての尊厳を護り、人権に配慮した看護を考える</p> <p>1) 病院や地域におけるチーム連携の必要性を理解し、チームの中での看護の役割を考える</p> <p>2) 精神に障がいを持つ人の地域生活の実際と、病院・地域の連携の実際を学ぶ</p> <p>3) 生活を支える制度と方法について学習し、地域における看護の必要性について考える</p> <p>※2) 3) は自立支援施設（通所施設）での実習</p> <p>1) 行った援助をリフレクションし、より良い看護を考える</p> <p>2) 対象者との関係形成過程における相互作用の洞察</p> <p>3) 病気からの回復や社会復帰・自立を支えるための看護について考える</p>			
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる				